

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500638
法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブひと
事業所名	グループホーム 夕日館
所在地	愛媛県新居浜市萩生 2 7 2 0 - 1
自己評価作成日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家を改修し、宅老所からスタートし介護保険開始時よりグループホームになりました。現在は女性6名で敬いいたわりながら暮らしています。本当の家族のように悲しいことには涙し、喜びは分かち合い、ときにはいさかいもあります。介護度が上がっていく中お互い受け入れて、住み慣れたところで馴染みの人に囲まれて、最期までのんびり気ままに暮らすお手伝いができればなあと考えています。利用者様やご家族・ワーカーが何でも話し合え、お互いを認めあいながら接することができるように実践していきたいと思っています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念は、全職員で話し合い作成されており「夕日館を利用者の第2の故郷として、地域の方と一緒に最期まで生活していただきたい」という全職員の思いが込められている。理念は、共用空間や台所に掲示しておられ、又、利用者個々の「ケアプラン表」にも示し、職員が理念を意識しながら日々ケアに取り組めるようにされている。
菊を見事に育てておられる地域の方のお宅に見物に寄せてもらったり、紅葉を見にドライブされたり、初詣にも出かけられた。車で新居浜名物の「ヒット焼き」を買いに行かれることもある。法人が経営する食堂「まんまる食堂」に出かけ、好きなメニューを選んで食事をされることもある。美容室に行く方も支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 夕日館

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

高橋 光子

評価完了日

22年 12月 21日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 『住民参加型福祉』を目指す法人の理念に添い、事業所の理念も全職員で作っている。『のんびり、気ままに過ごしましょう。～住み慣れたところで最期まで～』理念は事業所に貼り出している。	
			(外部評価) 理念は、全職員で話し合い作成されており「夕日館を利用者の第2の故郷として、地域の方と一緒に最期まで生活していただきたい」という全職員の思いが込められている。理念は、共用空間や台所に掲示しておられ、又、利用者個々の「ケアプラン表」にも示し、職員が理念を意識しながら日々ケアに取り組めるようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入している。清掃活動・祭りの寄付など協力している。日常的交流は草引きの手伝いに来てくださったり、季節の野菜を頂いたりする。また、法人の機関誌を年数回発行し、職員が地域へ手配りしている。夏休みには中高生がワークキャンプで訪れる。敬老会へは参加したいが、個人で自治会に加入し、なおかつ老人会費も必要との事で断念している。	
			(外部評価) 法人理事長は、法人全体で地域との「輪」を拡げていきたいと考えておられ、地域内にある法人のデイサービスで、地域の方も招待して、餅つきをされたり、夏には、地域の子どものためにそうめん流しやヨーヨー釣りを企画して「キッズまつり」を開催された。事業所からも利用者が4名ほど参加して子ども達と交流された。2か月ごとに発行している法人の機関紙「てくてくねっと」は、職員が300枚ほど地域のお宅にポスティングされ、地域の方達にも法人の取り組みを知ってもらったり、又、事業所の活動等も知らせておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) てくてくねっと(法人誌)などに相談窓口の案内をしている。24時間相談対応可能。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催の時間帯や曜日を工夫し、参加人数の増加を目指している。内容は日ごろの様子のお知らせ・取り組み・評価事業の結果の報告や参加のみなさまのご意見ご要望をお聞きする。議事録を残し、事業所の運営会議などで話し合う。</p> <p>(外部評価) 法人理事長は、会議を「利用者の日々の生活を知っていただき、家族の希望をお聞きする機会」と捉えて取り組んでおられ、多くの方に参加していただけるよう、法人の機関紙「てくてくねっと」で会議のメンバーの募集を呼びかけたり、会議の最後に、次回の開催日時を希望を聞き決めるようにされている。会議には、地域のボランティアの方が参加してくださったり、多数のご家族が参加してくださっており、11月に行った会議では、ホームの大家さんにも参加していただき、火災を想定した避難訓練を実施された。</p>	<p>会議に、老人会の方や亡くなられた利用者のご家族にも参加を働きかけておられるが、現在、参加者の幅が広がりにくいようである。参加しやすい会議の工夫等にも努めていかれ、事業所のことを知ってもらったり関心を持ってもらえるようすすめていかれてほしい。ひいては、事業所のサービスへのご意見や感想等もうかがい、サービスに反映していかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営に関する相談や待機者数の報告など、介護福祉課事業者指導係りとは連絡が密に取れている。福祉課とも連携し生活保護の方の受け入れもしている。包括からは運営推進会に参加して下さったり、介護相談員が訪問している。</p> <p>(外部評価) 3ヶ月に1回程度、介護相談員の訪問があり、利用者とお話しながら、ご本人の希望等を聞き取ってくださっている。相談員の方から「義歯を作ってはどうか」との提案があり、義歯を作った方もいる。2ヶ月に1度、生活保護受給者の生活の様子を市の担当者に報告されている。運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者が参加してくださっており、センターの役割や仕事について説明して下さったこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修に参加したり、勉強会をして身体拘束をしないケアに全員で取り組んでいる。どのような時どのようなレベルで身体拘束に当たるのか、共有している。</p> <p>(外部評価) 玄関は、施錠しておらず、内側の扉は、開閉する時に音が鳴るようにされている。骨折等で、利用者の状態がいつもと違い、不安定で転倒につながる危険がある場合は、ベッドに4点柵を使用することもあるが、ご本人ご家族に説明して納得していただき、同意書を取っておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の内容を全員で共通理解できるように研修を受け、報告書に基づいて内部研修を行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の参加や勉強会はしているが、まだ、制度を利用する人はいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が契約書・重要事項説明書・運営規定・情報提供票などの内容に沿って説明する。他の職員も内容を理解できている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族からの意見や不満・苦情（直接御意見箱など）を職員間で共有し、改善に取り組む。経過等は運営推進会議でお知らせする。また、介護相談員の訪問で利用者は相談に乗ってもらえている。後日報告していただく。	
			(外部評価) 年1回、事業所で行われる敬老会の日に、家族会を開催されている。今年度、5名のご家族の参加があった。ご家族からは、日々のケアについて感謝の言葉をいただくことが多いようだ。会議の後には、利用者と一緒に法人経営の「まんまる食堂」で作った昼食を食べながら過ごされた。ご家族の来訪時、管理者は、ご本人の日々の様子等を伝えながら、コミュニケーションを取るようにされており、ご家族の思いを「会話の中で探す」ようにされている。事業所では、ご家族からの率直な意見を聞きたいと考えておられる。さらに具体的なご意見がうかがえるよう入浴や排せつの支援について、又、事業所の設備、例えばトイレや駐車場の使いやすさ等についても、うかがってみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営会議と定例会に参加し意見を述べる事が出来る。話し合った結果は、記録にとってある。 (外部評価) 今回、自己評価は、職員一人ひとりが全項目に取り組み、管理者がまとめられた。まとめた後も、全職員で話し合いをされた。月1回の職員が集まる「チーム会」では、職員の日々の気付きを話し合われており、介護度が重度の利用者が安全に入浴できるよう、シャワーチェアの必要性を提案され、購入されていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ワーカーズコレクティブはすべてのメンバーが労働者であり経営者であるという、雇われない働き方なので、就業環境の整備はメンバーが決定している。各自できることに励み、働きやすい(年齢にとらわれず)勉強しやすい環境が整っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間研修計画を作成し、実施している。研修参加は機会均等を図り、働き方に関わらず、公平に出来ている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム管理者親睦会・ケアマネ協議会主催研修会・相互研修など参加し、日ごろから相談などできるような関係ができつつある。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 居宅のケアマネや家族より情報を収集したうえで本人の意思を重視している。また見学日にゆっくりお話を伺えるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申込時に必ず見学していただき、家族さんが今、何を求めているか常に心がけ耳を傾けるように努力している。入居が決まれば家族にアセスメントシートの記入をお願いしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談を受けたときは緊急の場合、他のグループホームや施設の紹介・居宅支援事業所への引継ぎを行っている。入居が決まれば、本人のできること・分かることを確かめ本人家族の希望にそい、支援できることを相談していく。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お互いに尊敬の気持ちをもって接することかできるように努めている。一緒に楽しんだり笑ったり過ごすことができている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 情報交換を行い、これからも一緒に支えて行けるように努めている。また、これまで困難な関係であったとしても先入観を持たずに支援できるよう努めている。家族が訪れやすい雰囲気作りに努め、これからも必ず1ヶ月に1回は訪問し入金していただくシステムは続けていきたい。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活歴を把握し、なじみの人が訪問しやすい雰囲気作りや入居前に利用していた介護サービスを利用することもある。市内でも遠い所から入居された方は困難な場合がある。 (外部評価) 利用者は、入居前に法人のデイサービスを利用されていた方が多く、散歩時や行事時等、デイサービスと行き来されている。又、利用者はデイサービスにいられているボランティアの方とも顔なじみになっておられ、会えることを楽しみにされている。桜のお花見に出かけた場所が、利用者の以前勤めておられた会社であったこともあり、とても懐かしがられたようである。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性や身体状況を考慮し居間の座席など工夫している。良好な関係のときはもちろん、不穏な雰囲気になりそうなどときには、関わりかたで回避できるよう努めている。居間で過ごす時間を大切に、できる限り居間で過ごせるように声掛けを行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 看取りのときは通夜や告別式にも参列し、在宅を選ばれるときは居宅に引継ぎをしている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その時々を言葉の聴き記録し、職員間で情報の共有を行っている。意思表示が困難な場合、職員本位にならないように職員間で意見交換しながら家族の意向も取り入れ検討している。 (外部評価) 利用者個々にとって事業所が「より生き生きとした暮らしの場」となるように、入居時のアセスメントは、ご家族にも協力していただき、ご本人の性格や得意なこと、生活歴等について等の情報を得るよう努めておられる。日々の経過記録は、時間毎の様子や会話の内容等を記録され、職員間で情報を共有して、思いや意向の把握に努めておられる。	職員は「利用者ご自分から希望を表すことは少ない」と感じておられ、利用者個々の「興味のあることや関心のあること」を探って、提案したり行ってみることに、取り組みたいと考えておられた。さらに、経過記録に集めた情報を分析して、ご本人の思いや意向を深く探り、よりご本人主体の生活支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人にお聞きしたり、家族へ情報提供をお願いしている。入居前の介護サービス等へも情報提供をお願いする。多方面から生活歴などを把握し記録し、職員間で情報を共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録を充実し、毎日の一人ひとりの生活のリズムを把握できるように努めている。また、有する力量にあったできることを知る為、定期的のアセスメントをしている。個人のできることを活かせる機会を増やしたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人・家族・職員・医療関係者などに意見を求め作成している。また、ケアカンファレンスで定期的にケア目標を見直している。(期間は一人ひとりに合わせている)</p> <p>(外部評価) 介護計画は、3ヶ月に1度見直しをされている。日々の経過記録をもとに全職員で話し合い、ケアマネージャーが計画を作成されている。モニタリングは、見直し前に、ケアマネージャーが日常生活、身体状況、精神状況の3項目に分けて行っておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの1日の暮らし方に添った記録表を作成し、ケア目標に添ってケアが実施できているかどうか記録する。カンファレンスで個別の担当者が経過を報告し、意見交換した上でケア目標の見直しを行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者や家族の希望に沿い、通院や外出(散髪やデイサービス)の支援をすることもある。点滴の見守りなどのニーズがあっても介護保険で出来ないサービスは、ボランティア・有償ボランティア・家族の支援などでできることもある。すべてのニーズに応えることは難しい。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) フリーマーケット・民家の菊祭りや美容院などへ、認知症があっても歩行が難しい方も出かけることができている。また、パンの訪問販売を楽しみにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>受診・往診・病院の紹介・訪問看護への指示などかかりつけ医には24時間連絡可能で安心できる体制が整っている。かかりつけ医は利用者や家族の希望に沿っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とされており、月2回往診していただいている。又、他の医療機関を利用されている方も、月2回往診がある。連携している訪問看護ステーションの看護師が週1回、健康状態を見に来てくれており、利用者の健康管理をされている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>24時間相談可能な訪問看護ステーションと契約している。毎日の健康状態を報告している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>現在はいいないが、入院中は病状の把握ができるように見舞ったり家族へ問合せをし、病状が安定すれば家族や利用者とは話し合い、退院に向け医師と相談する。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>本人・家族へ運営推進会議や家族会などで説明は繰り返し行っている。看護と介護の違いなども説明し、医療職不在の夕日館でもできることを説明している。重度化しないと考えるがまとまらない家族は多いが、これまでに行った看取りの経過は報告している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時に、重度化や看取りの支援について、事業所ですることを説明され、ご本人とご家族の意向を聞いておられる。又、状態変化時にも随時話し合いの場を持ち、意向を聞き取りながら支援されている。開設以来、6名の利用者の看取りを支援して来られ、事業所では「ゆっくり一緒に 気ままに その人らしく」という「看取り介護に関する理念」を作成されており、ご本人・ご家族の希望に沿った支援ができるよう努力されている。法人理事長は、看取り支援について「事業所と家族だけではなく、家族一人ひとりの絆、又、ご本人と家族との絆を大切にしたい」と、ご家族のかかわりや協力の大切さを話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故へのマニュアルをケアカンファレンス時確認している。救命救急訓練に参加はしている。事故・ヒヤリハット報告を徹底し事故防止に努めている。法人全体の事故防止安全対策委員会を1ヶ月に1回行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に緊急連絡の訓練や避難経路の確認など行っている。また、災害時、一時避難先として近所をお願いしている。防災グッズは定期的に点検している。 (外部評価) 今年度、消防署への自動通報装置と廊下に煙感知器、居室等には熱感知器を設置された。又、スプリンクラーも今年度中に設置予定となっている。事業所では、転倒防止グッズを使用してタンスやテレビ等が倒れないように地震対策をされていた。事業所の隣に住まわれている大家さんには、災害時、外に避難した利用者の見守りをお願いされている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ハード的にプライバシーの確保が難しいことは多々あるが、一人ひとりの人格を尊重し、言葉がけや対応を心がけている。 (外部評価) 職員は、利用者に「笑顔」で過ごしていただけるよう、穏やかに明るく対応されている。失禁の対応時には、周囲の利用者に分からないよう対応されている。又、居室内での生活を希望する利用者の思い等にも沿い、職員は無理強いすることなく接しておられる。	トイレや居室等、利用者のプライベートな場所の捉え方について、この機会に職員で話し合ったり、ご家族等にもご意見をうかがいながら意見交換されてみてはどうだろうか。事業所で配慮できることはないだろうか「一人ひとりの尊重とプライバシーの確保」という観点から話し合う機会にされてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 良く話を聴き状況を見極め希望に沿えるよう支援している。ちょっとしたおやつのお菓子選びでも、どれがいいか聞くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活の一定の大きな流れを大切にしながら、できる限り希望に応えるよう努めている。が、人員配置が手薄になる時間帯は困難なこともある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は家族や職員と出かけたりボランティアで訪問してもらったりして支援している。服を選んだり肌を整えたり、その時々で支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえを職員と一緒に、できる範囲で行っている。一緒に食事をしている。	
			(外部評価) 毎日、利用者と職員でその日の献立を考え、利用者の希望を採り入れた献立に努めておられる。調査訪問日の昼食は、炊き込みご飯で、利用者は前日にえびの皮むきをしてくださったそうだ。毎日、夕食の食事介助にご家族が来てくださるような方もあり、ご本人は楽しみにされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は記録できている。普通食が困難な利用者には必要に応じ介護食にし、口から食べる援助を続けている。嚥下の研修に参加し安全な食べ方に努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとり援助の方法は異なる。ほぼ自立の方は朝夕の声かけや夜間の義歯洗浄、全介助の方は毎食後、それぞれの援助方法が変わる。ADLの変化で、できることできないことを見極めながら行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人記録で排泄パターンを把握している。オムツ利用の方は、心身の状態や時間帯などでオムツ類の工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行うことで、失禁が減少している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排便のパターンを調べ食事や水分で工夫している。医師の指示の元、便秘薬も適切に服薬支援している。また、腹圧がかかり排便しやすい姿勢での排泄介助ができています。毎日ラジオ体操を行っている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>週3回が基本であるが、季節・個人の体調・希望にあわせ入浴している。認知症がすすんだ方にも入浴が楽しめるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回、入浴日を決めておられるが、入浴日以外でも希望に応じて入浴を支援されている。「一人で入浴したい」方には、戸の外から、時々職員が声をかける等、安全に配慮しながら入浴を楽しんでもらえるように対応されている。民家改修型の事業所で深めの浴槽であり、利用者の状態によっては浴槽で温まるのが難しいような方もいるため、法人の福祉住環境コーディネーターに相談されたが、浴室の改修が難しいようで、現在はシャワー浴、足浴での対応になっている方もいる。</p>	<p>設備面については制限もあり支援に難しさもあるだろうが、利用者一人ひとりが入浴が楽しみになるよう、今後も支援に工夫を重ねていかれてほしい。又、他事業所の入浴支援の取り組みや工夫等について聞くような機会も作ってみてはどうだろうか。</p>
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>体調や前日の睡眠時間により、休んだり眠れたりできるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況を職員は把握できている。また、服薬による変化は記録し医療機関へ連絡できている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ドライブや散歩、ボランティアさんと一緒にオカリナや大正琴に合わせて音楽を楽しむことができるように支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個人差はあるが、盆踊りなどに家族さんと一緒に参加し外出出来るように支援している。 (外部評価) 菊を見事に育てておられる地域の方のお宅に見物に寄せてもらったり、紅葉を見にドライブされたり、初詣にも出かけられた。車で新居浜名物の「ヒット焼き」を買いに行かれることもある。法人が経営する食堂「まんまる食堂」に出かけ、好きなメニューを選んで食事をされることもある。美容室に行く方も支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) キーパーソンと相談の上、希望・能力に合わせて支援する。現在の利用者は、困難なことが多い。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分から手紙を書いたり電話をかけたりはしないが家族からの手紙や電話を楽しみにして、手紙を大切にされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節を感じられる部屋飾りを心がけている。室温や湿度には特に注意を払って記録している。	
			(外部評価)	
			事業所は、住宅地の中に位置する民家改修型のグループホームで、利用者の年代にとって懐かしい感じがする造りとなっている。居間には、テーブルを囲んでソファと椅子が置かれてあり、利用者はお気に入りの場所でおしゃべりしたり、歌を歌っておられた。トイレは1ヶ所で、利用者は順番に利用しておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			居間での座り方を工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人・家族と相談の上家具や寝具を整えている。家族からの写真を飾ることもある。	
			(外部評価)	
			床の間のある部屋をカーテンで仕切り、2名の利用者で使用されている居室があった。居室には、行事の写真が貼られていたり、ご家族からの土産の木彫りの小物、神社のお札を飾っておられる方も見られた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			手すりやスロープで移動を安全にできるように、トイレや洗面所の場所が分かるようにプレートを置いている。	